



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

ようぼく躍進の秋

「一斉活動日」で年祭活動に弾みを



「諭達第四号」の発布から1年。今月26日には、立教186年の秋季大祭が執行される。また、28日には第1回目となる「ようぼく一斉活動日」が開催される。「躍進の秋」とも言える今、年祭活動にさらなる弾みをつけるべく、歩みを進めよう。

本年の秋季大祭が今月26日、本部神殿で執行される。昨年の秋季大祭では、コロナ禍のさまざまな影響や制約の残る中、「諭達第四号」が発布され、教祖140年祭に向かう三年千日の年祭活動の指針をお示しいただいた。

年祭活動が始まった本年。年が改まり、三年千日の年祭活動が始まった本年。年が改まり、三年千日の年祭活動が始まった本年。年が改まり、三年千日の年祭活動が始まった本年。

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

みをつける機会の一つが、「ようぼく一斉活動日」だ。既報の通り、同活動日は今年29日に第1回目が行われ、三年千日の間に計5回の開催が予定されている。一斉巡教で学んだことを実践に移すための取り組みであり、教会から離れた地域に住むようぼくや、教会から足が遠のいているようぼくにとっても、信仰を見つめ直し、共に年祭活動に歩み出すきっかけとなる。

のだ。大教会では、事前に各教会に参加カードを配布しているのので、参加者は必要事項を記入の上、当日各会場に提出のこと。会場ごとに異なる活動内容や、アクセス、開催時間などについては、「教区・支部情報ねっと」で検索できる。

なお、同ページへは「教祖140年祭特設HP」からもアクセスできる。同HPへは、左記のQRコードから。

教祖 140 年祭特設HP



<https://www.tenrikyo.org/oyasama140nensai/>

大教会人事各部新たに

青年会、少年会、学担も

9月13日の祭典後、大教会各部・各係の人事が発表され、合わせて青年会と少年会、学生担当委員会の各委員長・団長、委員が新たに任命された。今号は6面立てとして、4面以降に人事の内容を掲載する。

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
秋季大祭	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
女子青年例会	15日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
本部秋季大祭	26日	午前8時

10月のこよみ

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



今回は、毎日のおつとめについて考えてみたいと思います。

朝夕のおつとめは、教祖ご在世中から行われていたのでしょうか。私自身も疑問に思ったので調べてみました。

朝夕のおつとめはいつから

約50年前の「みちのとも」(立教138年7月号)には、つとめ場所が出来た(元治元年/1864年)ころには、すでに秀司様が芯になって毎日つとめられておられたこと、回数も当初は拍子木を叩いて「南無天理王命」と繰り返すばかりだったが、明治15年ごろには21回に定まっており、同年お

出直しになった秀司様の妻・まつゑ様も朝夕のおつとめで21回つとめられていたように記憶しています。と、当時の先人先生方が振り返っておられます。

当時のことを詳しく書き記している諸井政一氏の『正文遺韻』には、朝夕のおつとめの意味について、たとえば神道の祝詞(のりと)が文字を知らない人には読むことが出来ないことなどと比較しながら、「神様は、一人ができて、一人がようせんと

いふ様な、むつかしい事は、思召にかなひません」として、神道ならば祝詞の代わり、仏教で言えばお経の代わりになるものとして、「十二下りの御うたをはじめてきかして被下(くだされ)まして」とあります。

そして、「明治元年に『あしきはらい、たすけたまへ、天理王の命』と、となへて、手品をして、朝晩のつとめとすべき事を、御教へ被下(くだされ)ましたのでござります」と書いています。ここでの「手品」というのは「手振り」という意味かと思えます。

毎日つとめる意味

では、教祖がこのようなお思召で教えてくださったおつとめを、朝夕につとめる意味はどこにあるのでしょうか。

高井猶吉氏は教祖から以下のように聞かせて頂いたとして、「朝づとめは、その一日中の願い、殊に借りものを何不自由なく使わして頂きたいお願いである。夕づとめは、結構に御守護頂

いたその御礼であると申されました(中略)人間一寸先はわからない。いつ何時どんなことが起こるやも知れない。神様もたれである。朝づとめに参拝させて頂いて、内々事のないよう、かつ大難は小難、小難は無難にのがれさせて頂かねばなりません。人間思案はあかん」と書き残しておられます(高井猶久編『教祖より聞きし話・高井猶吉』より)。

おちばのかんろだいでつとめられるおつとめが「祈念のおつとめ」であるとするならば、朝夕のおつとめは「感謝のおつとめ」と言えると思えます。

そしてその意味は、毎日当たり前の暮らしの中にある「うれしかったなあ」「ありがたかったなあ」という小さな喜びに気づくことです。そしてそこから生まれる感謝の心は、人生に大きな「奇跡」を起こす源でもあると私は思います。



公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- ▷ 大教会の行事日程を確認
- ▷ 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- ▷ その他お知らせ

楽しく学ぶ



- ▷ 祭典の様子をライブで視聴
- ▷ 大教会長の連載動画
- ▷ 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る

明治二十九
(一八九六)年
四月、当時の内
務省から全国に
向けて天理教を
弾圧する訓令が
出されました。
今から百二十七
年前の出来事で
す。この内務省
訓令は、秘密裏
に出されたた

いたことが原因です。これ
により布教師は表立っての
布教が困難になりました。
しかし布教ができないから
といって、当時の布教師が
おたすけを諦めるはずがあ
りません。また世間には、
病気を救ってほしいと願う
人が大勢いましたから、水
面下での人だすけは盛んに
繰り広げられたのです。

そんな時代のある時、当
時教会本部を管轄していた
神道本局から、天理教は神
道から独立してはどうかと
いう話がありました。もと
よりお道の信仰は教祖お一
人から始まったもので、神
道とは何の関係もありません。
ただ制度上、神道本局
の管理下に置かれていただ
けです。だから一派独立は

本教としても積年の願
いであり、これを機に明治
三十二年から独立請願運動
が始まることになりました。
けれども政府から一派独
立を認められるには教義、
制度、組織など、あらゆる
面で体制を整えなければな
らず、運動は困難を極めま
した。なぜならそれまでの
天理教は、信仰信念だけは
どこにも負けない熱意と気
迫がありました。それが、それ以
外はほとんど整えられてい
ない状態だったからです。

かしその中を、必死になっ
て一派独立への道を開いて
くださった初代真柱様をは
じめとする先人のおかげで、
学校(天理学校)や別席な
どの組織と制度が整えられ、
大正、昭和の時代にお道が
大きく発展する基盤が固め
られたのです。

◆心の錦は神の望み

ところでこういう状況に
なると、いかに熱心な先人
でも、外見の体裁を整える
方向に気持ち傾いてしま
ったのでしょうか。親神
様はおさしづでその点を厳
しく戒めておられます。

新型コロナの感染拡大は
お道の活動に大きな影響を
及ぼしました。しかし感染
症法上の扱いが五類に引き
下げられた今は制約もなく
なり、本部も教会も以前の
活気を取り戻しつつありま
す。こうした時にこそ、た
だ姿や形を元に戻すだけ
なく、「心の錦は神の望み」
とのお言葉を胸に刻み込む
努力が肝腎です。そして心
のほこりを払っているか、
他者への思いやりを忘れて
いないかなど、常に反省
をくり返しなが日々を歩
む努力が求められます。

め「秘密訓令」ともいわれ
おつとめ、おさづけ、おつ
くしを法律によって厳しく
規制して、教団を解散させ
ようとするものでした。

その後、請願書を提出し
ては却下されるという状況
が何年も続き、ようやく独
立が認められたのは運動開
始から実に九年後、四十
一年のことです。道中には過
酷な苦勞がありました。し

その後、請願書を提出し
ては却下されるという状況
が何年も続き、ようやく独
立が認められたのは運動開
始から実に九年後、四十
一年のことです。道中には過
酷な苦勞がありました。し

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

現代は、先人が通られた
苦勞とはまた別の意味の困
難が立ち塞がる時代です。
その中で世情に流れず、神
一条の精神を「心の錦」と
して、困難な時代に立ち向
かっていきましよう。

その背景には、明治二十
年以降の白熱的な布教に
よって、全国で爆発的に信
者が増えた事実があり、そ
の状況に政府が危機感を抱

よりお道の信仰は教祖お一
人から始まったもので、神
道とは何の関係もありません。
ただ制度上、神道本局
の管理下に置かれていただ
けです。だから一派独立は

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

(第106回)

世情に流れず神一条の心で
困難な時代に立ち向かおう

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

一つも要らん。
(明治35年7月20日)
錦とは金銀の糸で豪華に
飾られた布のこと。つまり
外見をきれいに飾るより、
心を素直に、きれいにし
て、神の望みを固めること
が神の望みであるとお諭

大教会人事

立教186年9月13日付

会長室

室長

桑子 保

次長

山神 茂彦

室務係

主任

松原 悟

門田 譲

安藤美恵子

安藤 穂音

総務部

部長

中島 功雄

次長

種田 孝男

総務係

主任

岡田 實

野田 正樹

教会係

主任

出口 邦郎

山本 治行

佐藤 正喜

法人係

主任

種田 孝男

石井 富男

津田 豊郎

たすけ推進部

部長

板山 眞一

次長

山本正太郎

大橋新一郎

相原 知宏

出口順一郎

岡野 行喜

海外部

部長

板山 眞一

相原 知宏

安藤 智郎

出口 祐助

教養室

室長

安藤正二郎

吉田 克義

細川 明

中島 裕信

久野祐二郎

会計室

室長

野田 正道

▷

拝殿事務所係

主任

野田 正道

事務係

佐藤 和世

松原 詠子

石井 文恵

佐々 眞子

佐藤 孝代

大倉 節子

山本 時子

山下せつ子

細川智恵子

野田 寛子

青木奈美子

都築 花枝

大橋 直子

若杉二美代

吉田 佳子

安藤美恵子

和光 春美

中島恵美子

門田 和美

大倉 喜香

塚原 明美

祭事部

部長

青木 健裕

次長

伊藤 寿輝

神殿祭事係

主任

出口 順英

田中 新一

水野 和好

佐藤 正二

山内 光正

鈴木 真也

大池美公雄

本田 正樹

大橋新一郎

加藤 成幸

坂倉 敏男

河村 善文

安井 篤

長良 英男

加藤 忠

伊藤 公男

伊藤 寿輝

佐々 壽章

出口 雅美

雅楽係

主任

津田 豊郎

門田 茂

種田 孝男

加藤 成幸

杉村 善男

塚原 光男

佐藤幸一郎

杉下 和平

桑子 彰

杉村 善男

佐々 壽章

大橋善太郎

山神 茂彦

吉田 智秋

細川 明

大橋善太郎

安藤 智郎

安藤 潤

安藤 潤

安藤 潤

安藤 潤

安藤 潤

安藤 潤

安藤 潤

史料係 石川 喜一

主任 門田 讓

委員

和光 優太(本御重)
石井 宏親(本耀)

構内部分長 和光 重男

坂倉 敏男

上野 孝吉

中島 裕信

門田 理

センター室

主任 和光 重男

炊事係

主任 長尾 淳子

補佐 長尾 誠

信者詰所

主任 松浦道太郎

副主任 山下 徳幸

詰所係 岡野 行喜

■青年会本愛分会

(立教186年9月13日付)

委員長

中島 裕信(本昭和)

副委員長

安藤 潤(本宝浦)

石川 喜一(本修行)

団長

松原 悟(本耕)

副団長

長江 邦彦(本心)

相原 知宏(本徳)

種田 里恵(本煥)

委員

出口順一郎(本道橋)

大橋善太郎(本美幸)

桑子 彰(本穂)

花井 正行(本耕)

中島 広貴(本昭和)

檜崎 優(本理愛)

安藤 智郎(本則武)

出口 祐助(本正道)

久木野 仁(本耕)

村松 直子(本心)

都築 信代(名愛)

澁谷 美鈴(本耕)

永松 知里(本正行)

種田ゆかり(本煥)

■少年会本愛団

(立教186年9月13日付)

世話人教会一覽表

立教186年9月13日

山本正太郎	長江 邦彦	松原 悟	細川 明	伊藤 寿輝	松浦道太郎	種田 孝男	加藤 成幸	板山 眞一	山神 茂彦	吉田 克義	大倉 光晴	中島 功雄	杉村 善男	和光 重男	出口 雅美	桑子 保	吉田 正信	青木 健裕	石川 文彦	都築 隆道	野田 正道	安藤正二郎
9	3	11	6	3	8	4	7	10	5	7	5	4	5	5	6	6	4	4	3	3	4	5
本美咲	本昭和	本愛中	本徳	本信義	本理愛	本桑名	本尾頭	本築	本定	本美幸	本愛湊	本滋賀	本海部	本濱松	本良心	本西部	本愛徳	本鈴鹿	本孝徳	本知	本山王	本喜愛
10	10	18	9	10	11	8	8	11	11	8	8	5	8	6	18	10	8	6	5	11	6	10
本實愛	本愛岐	本穂	本高見	本金山	本御重	本今村	本善徳	本愛岳	本千原	名愛	本晃	本心	本清明	本藤	本岩塚	本耀	本仁愛	本則武	本耕	本尾愛	本正義	本柘嶋
19	17		10	18		9				21	19	6	9	10		11	18	11	6	16	10	11
本愛福	本春明		本宝浦	本土佐		本修行		本愛慶心		本宏	本正行	本尾州	本一心	本愛濃		本煥	本愛勢	本正道	本豊國	本愛守	本眞愛	本道橋
								本愛アトランタ				9									19	本名

【最終面に続く】

種田 美里(本 煥)
 門田二三美(本理愛)
 以上20名

■本愛学生担当委員会

(立教186年9月13日付)

委員長

山本正太郎(本 定)

副委員長

大橋新一郎(本愛中)

野田 正樹(本 晃)

水野よしゑ(本正行)

委員

山本 治行(本桑名)

山崎 隆文(本 心)

加藤 正宏(本美咲)

江口 孝治(本山王)

筑紫 晴久(本愛勢)

佐藤 正喜(本愛徳)

青木道裕(本枇杷島)

日比野泰也(本眞愛)

水野 和仁(本正行)

水野はつよ(本 知)

佐藤多喜恵(本 築)

渡邊 充子(本 築)

瀧 佳代(本 心)
 大倉由里奈(本一心)
 以上18名

8月の初席者

栗原吉伸(直轄)

本耕分教会二代会長

松原わきの霊の三十年祭

本耕分教会では9月17日

午前10時30分より、二代会

長・松原わきの霊の三十年

祭が、大教会長を祭主とし

て同分教会で行われた。

ほんあいOKEIKO 休止のお知らせ

少年会の「ほんあいOKEIKO」は、活動内容の見直しのため、本年度内の開催を中止させていただきます。受講予定の方には大変申し訳ございません。

再開は来年4月の予定となっており、詳細については本愛誌や大教会HP等で告知させていただきます。ご理解の程、何卒よろしくお願い致します。

少年会本愛団

大教会日誌

令和5年8月25日～令和5年9月24日

8月

26日 本部月次祭

27日 ほんあいOKEIKO (参加者3人)

31日 常任役員会議◇役員会議

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・大橋進、板山眞一

指図方・安藤正二郎 賛者・塚原光男、野田正樹

◇大教会長挨拶

9月

1日 入社祭

青年会例会

祭主・大教会長 扨者・山神茂彦、細川明

14日 布教実修所

指図方・野田正道 賛者・杉下和平、山本治行

16日 むつみ会例会

秋季霊祭

17日 こかん様に続く会 (参加者21人)

祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、野田正道

ほんあいOKEIKO (参加者16人)

指図方・安藤正二郎 賛者・津田豊郎、桑子彰

こども食堂MOGU (参加者72人)

2日 よふき会例会

20日 婦人会例会